

佐貫小学校保護者の方への説明会での質疑

期日：令和6年2月29日（木）

出席者

市教育委員会：岡根教育長・平野教育部長・細谷学校教育課長・大畑主幹
田口指導主事

保護者：6名

富津市教育委員会岡根教育長から挨拶

今日は学校再配置のアンケートの結果についてお話申し上げ、皆さん方からもご意見をいただければと思います。忌憚のないご意見をどうぞよろしくお願いしたいと思います。

富津市のホームページに掲載について

説明会の議事録と学校再配置に関する保護者アンケートの結果を富津市のホームページに掲載させていただきたい。

学校再配置に関する保護者アンケートの結果について

別紙資料参照

意見・質問等

Q1：少人数や環境の良さ等で移住してきた方もいるのではないのでしょうか。

なぜ大貫小学校で、吉野小学校でない理由、判断基準を聞きたいです。

A1：大貫小学校は佐貫小学校に隣接していること、距離が近いことから考えました。

Q2：あくまでも距離と隣接ということでしょうか。

学校の大きさとしてはどうでしょうか。

A2：大きさとしては現在、大貫小学校は166名、吉野小は117名です。学年の児童数に大きな差はありません。

Q3：保護者の意見を見て、苦渋の選択で再配置を進めるという覚悟を感じます。

ふるさと、地域がなくなっていくんじゃないかという不安を抱えていると思い

ます。この再配置が進んでいくことで、地域の過疎化を加速させているのではな

いでしょうか。子どもたちの数を合わせるだけという、方向性にどんどん進んでいるのではないのでしょうか。車で移動できる、時間にあまり差がない、大勢のところに行けば良いとあって、田舎の不便なところで、人が少ない中で頑張っている人たちをよけい不便な状態に追い込んでいると思います。本当に子どもたちの将来に対して、本当に子どもたちに良いと、考えているのでしょうか。我々が不信感を持ってしまう説明やいたしかたがないという表現で、子どもたちの環境のためにという表現で、きれい事のように聞こえてきてしまいます。みんなが頑張っているんだということに向き合っていないように感じてしまいます。いっぱいなところに子どもたちを置いて、競争力を持たせてあげたい、予算的なこともあると思いますが、予算がないから少しでも予算の負担が少なくなるようなところへ比重を持って行くような、集団に偏って行くだけで、またその集団が少なくなれば同じ繰り返しが進んでいくだけです。これまでの再配置と同じことを繰り返すのでしょうか。それに対する答えがありません。今いる小学校の子どもたち、佐貫小を選ばなくなってしまった子どもたちの未来のことを考えた上での決断としての覚悟で我々に説明をしているのでしょうか。それをはっきりと聞かせてほしいと思います。

A3：子供たちにとっての環境を考えたときに、児童数があまりに少ないという感覚があります。子供たちにとっての社会性を育てる上で、同じ学年の子供たちがいる程度の人数がいる中で、お互いに意見交換したりすることを学ぶことがかなりの比重であるように思っています。児童数が少なくなりすぎるのは良くないだろうという思いで、このような取り組みを行っています。

子供たちが、「賛成」「反対」「そうじゃないんじゃない。」などと意見を言い合う中で、子供たちが自分の考えをまとめたり、選択をしていくことが、極めて発達段階では大きいと思っています。

地域の人が少ないになってしまうのをどうやって防ぐかというために学校を存続させていくという考え方もわからなくはありませんが、子供たちにとってこの環境でいいのかどうかということについて考えていただければと考え、話をしています。

決して大きな学校に一つにまとめようという考えはありません。子供たちの環境のためにはある程度の規模を持った学校、ある程度子供たちが集まってくるような環境が必要だろうという考えです。決して、数合わせという問題ではないとい

うことはご理解いただきたい。

児童数が少なすぎる学校の中での環境が是正できるのであれば、是正していきたいと思います。それでも皆さん方が、そういう考えは全くありませんというのであれば、何度でも話し合いをして、ご理解いただきたいと思っています。

子どもたちの故郷の学校がなくなることはとても寂しいことですが、はじめから大佐和中学校に通う子どもたちにとっては、そこが母校になるので、子どもたちの歴史はそこで培われていきます。ただ、この地区から、学校がなくなるということについて、軽々に扱ってはいけないということに関してはおっしゃるとおり、肝に銘じていかなければならないと思っています。

Q4：私の周りの意見として、一緒でも良いよねという意見の方が少なく、残したいという意見の方が圧倒的に多いです。

自分の親世代の話ですが、新舞子側の子どもたちと町の方の子どもたちが一つの小学校、中学校へ上がる時、こんな小さな学校でも、地域差が出て気持ちに一体感がなかったという声を聞いています。自分も経験しましたが、なじむことに時間がかかりました。子どもだからある程度の適応力はあるかもしれませんが、気持ちの温度差、見えない壁がありました。

はじめからその学校であれば大丈夫かもしれませんが、過渡期にある子どもたちにしてみれば、温度差はずっと残っていくものなんだと強く感じています。でもそれが、人間として生きていく上での環境の中であるということも承知しています。知らない人の中に入っていくということも大切な経験だとは思いますが、その心の土台をつくるのが小学校であって、この地域とのつながりの強さが一番ある頃なのに、その色濃さを薄めてしまうという不安です。子どもたちがその環境で育っていけば、それが当たり前として育っていくと思いますが、その環境を我々がつくることの恐れ、不安ということも考慮していただけているのかなってということも思います。子どもたちの精神的なものを維持する、競争力を持たせるとなどの面での再配置ということも理解はしています。しかし、子どもたちの中の、もやもや感みたいなものを吹っ切れないうままであるということが自分の中にあります。そういう環境を過渡期にある子どもたちにあたえることがすごく気になる部分です。そここのところはご理解いただければと思います。

A4：在学中に再配置されるという場合、そういう気持ちになると思います。では来年度から新生を取りませんというやり方もあると思いますが、いずれ下級生が

いないという状況になります。それは、学校としてうまくいかきません。だからどうしても、在学中の再配置を行わざるを得ません。中学校であれば、3年間なので、3年生だけの卒業で終わりになるという場合もあるかもしれません。しかし、小学校は6年間あるので、学校が最終学年だけとなってしまうのは、望ましい状況ではありません。

学校の在り方や、子どもたちの精神的なものなど、不安があるかもしれませんが、今、一番心配しているのは、少なくなりすぎることで、意見交換そのものが希薄になってしまうことです。先生がたくさんの意見を提示するよりも、子どもたちが意見を出し合って、この子はこんなことを考えている、どうやって考えていこうかということは、ある程度の集団がないとできません。多くの方が学校を惜しみながらもしょうがないと考えているのではないのでしょうか。

ある程度コミュニケーションをとっていき、人間関係をつくり、自分の意見を説明していくというのは求められる力であると思います。意見交換をできるような場がほしいです。そういう場を持つことが成長につながると考えていることをご理解いただければと思っています。

Q5-1：今、佐貫小にいる先生方が大貫小へ配置されることを考慮していただけているのでしょうか。子どもたちの不安感を救うための対応。そうなってしまったときのスクールカウンセラーではなく、そうならないための対応をいただけないでしょうか。

Q5-2：親や地域は学校がなくなることで、地域が衰退していくための不安があります。学校がなくなったあとの学校や跡地のがどのように活用されていくのでしょうか、町の活性についてどのように考えているのでしょうか。

A5-1：再配置の場合、増置は多少ありますが、同じ学校の職員が全て配置されることはありません。スクールカウンセラーに関しては、子どもたちの様子や実態を見ながら対応しています。環境の変化による子どもたちの悩み、家庭での様子など意見を聞いて、相談していきます。

A5-2：再配置後の施設や跡地の有効利用については、市の企画政策部で考えていきます。学校だけでなく他の行政財産については、有効利用していこうという考えがあります。特に学校に関しては、公募で募集して進めています。旧天羽東中、環南小、関豊小等、業者が使いたいという意見を聞いて、審査して、利活用していくというようにしています。

もし、佐貫小を使わなくなった場合は、地域の利用や有効利用できる企業などが使うというようにしていきますが、今、再配置が決まっているわけではないので、今後どうしていくかという話はありません。

意見：地域では、そういうことも周りから出てきています。

Q6：全員の異動はないが、増置はあるということでしょうか。

A6：再配置の場合は、増置として配置される事があります。これまででいうと、1人や2人です。また、人事異動として、佐貫小の職員が何人か配置されると思います。天羽小の再配置の時も天神山、金谷、竹岡など、それぞれの学校から異動されました。

Q7：先日、大貫小で交流会があったと思いますが、佐貫小にもきてもらって、交流会をしてほしいです。

A7：1回目は大貫小へ佐貫小の子どもたちが行きましたが、今後継続して行っていくので、大貫小の子が佐貫小へきて、佐貫小の様子や良さを感じてもらおうと思っています。

Q8：いろいろなアイデアで楽しんでもらって、交流をしてほしいと思っています。この説明会を何回かやってもらっていますが、いつも同じメンバーで少ないので、もっと多くの方に参加してもらいたいのので、授業参観やバザーなどの後の時間に説明会をしたらどうでしょうか。

A8：できるだけ多くの方に参加してもらいたいと考えているので、来年度、PTA 総会・授業参観の時に、日程調整をさせてもらって説明会を考えています。

意見：交流会はとても良いことだと思います。大貫小のお子さんにも佐貫小を知ってもらいたいです。佐貫の子たちはどんな思いを持って佐貫小に通っているのかということも知ってもらいたいです。佐貫小の子たちの思いを知って、先生方や子どもたちにも気にかけてもらえるようにしてほしいです。

佐貫小は、〇年生の先生というのではなく、どの先生も子どもたちのことを知っています。子どもたちを知っている佐貫小の先生が1人でも2人でも大貫小へ行ってもらって、悩みを聞いてもらうなどの配慮をしてほしいです。

意見：いつも少ない参加者なので、多くの人に参加してもらって、多くの意見、特にこんな良いところもあるという賛成の意見をもう少し聞きたいです。

自分の子の入学時に、同級生が4人と聞いて不安でした。気が合わなかったり、同級生に同性がいなかったり、このまま6年間過ごせるのかという人間関係の不安がありました。今現在は、みんな仲良くやっていて良かったけれど、それは少人数だからというわけではないと思います。下の子が入学するときに、また同じ不安があります。とにかく子どもの数が少なすぎるという不安があります。いろいろな人の意見が聞きたいです。多くの人意見が聞けるような会を持ちたいです。

Q10：自分は再配置に賛成の立場です。この佐貫小の子どもたちが、高校へ行ったときに、かわいそうかなと思います。田舎からでてきた子たちが、大人数の中に入るときに、つらい思いを感じながら、話に入れないという子が増えなければいいなと思います。

今、子どもたちにとって大切なことは、先生方と仲良くなることではないと思います。少人数できめ細かに見てもらうことはとても良いことだと思いますが、それよりも優先させるべきことは、横のつながりだと思います。少なすぎるということが、自分もネックになっています。先生たちと仲良くなることを子どもたちも楽しいと言っていますが、もっと広く見て、大貫小の子たちと関わったときの楽しさをもっと味あわせたいと思います。子どもたちが交流会を100%楽しいと思えたのは、佐貫小の先生方の力添えだけでなく、大貫小も細心の注意を払ってくれたと思います。双方の子どもたちが仲良くしていこうと思って関わられた子どもたちの気持ちを信じたいです。

再配置は令和何年度から再配置がスタートするのでしょうか。

A11：教育委員会としては、保護者の方々のご理解をいただけたというところから2年を考えています。

Q12：すると令和8年ですか。

A12：今、理解を得るための説明会をしているところですので、2年と言いますと、8年度が目安となりますが、まだ、説明会をさせていただいているところです。教育委員会としては、条件整備の対応はできる限りしていきたいです。条件整備について最低2年かかるので、環境整備について概ねご理解がいただければそこ

から進めていきます。保護者の方々が概ね賛成していただいているのであれば、それから地域や大貫小への説明を進めさせていただきたいと思っています。

Q13：子どもたちの環境を整えてあげたいという教育委員会の考えと私たちの地域を含めて残したいという訴える方向性が、最初から反対の方向を向いています。かりに大佐和小になりますよって言ったときの魅力や、将来の上を見てイメージできるような、説明がないが故に、どよんとした感じのままだとすごく感じました。未来に対する大人としての明るい未来を子どもたちに与えるような、上を向いて話を進めるのではなく、人口が減ったからしょうがない、子どもの数が減ったからしょうがないというあきらめムードのまま話が進んでしまって、気持ちが沈んでいく。それをなんとか、頑張っってやっていこう、みんなでやっていこうという、上向き思考が感じられないが故に、反発しています。

A13：天羽小を見たらわかると思いますが、どの子がどの地区から来たっていうことは全くなく、生き生きと、それぞれの地区の良さを持った子どもたちが集まった集団の中で、学校が営まれています。それが、私たちが持っている未来です。だから、マイナス思考でやっていますという思いは全くありません。子どもたちが交流していく中で、子どもたちの元気が出て、子どもたち自身の活性化が進んでいきます。学校がエネルギッシュになっていきます。機会があったら天羽小を見ていただいてもいいと思います。

Q14：佐貫小のさびたり壊れたりした遊具の手入れはどうなるのでしょうか。

A14：現在は教育施設なので、教育委員会で補修作業をします。危険箇所は速やかに補修作業をします。ただ、老朽化して修繕できないもの場合は、使用禁止にします。修繕可能なものは修繕します。

Q15：交流会等も私たちも一緒にやっていけたらと思っています。

A15：今後、保護者にも見てもらう等の案もありました。

意見：交流会等をビデオ撮ってもらったり、参加したりしたい。

交流会を参観できない方への対応もお願いします。

意見：うちの子どもは交流会に行って、大貫の子どもとか佐貫の子どもとか言いま

せんでした。新しいお友達ができたとっていました。大人の感覚と子どもの感覚は違うと思いました。大人が学校を残したいという思いと子どもの思いと、家族が責任を持ってあわせていかななくてはいけないかなと思っています。われわれがそういうものにしがみつきたい気持ちもあるけれど、子どものことを考えて、譲るべきところは譲り、あわせていかななくてはいけないことはあわせていきたいです。良いこととリスク、両方ありますが、前向きに考えていくことは大切だと思います。